

天声人語

家族4人がそろって失業中のキムさん一家は半地下のかび臭い部屋に住む。対照的にIT企業を経営するパクさん宅は豪壮で小高い丘に立つ。この2家族を描く韓国映画「パラサイト」

が米アカデミー賞で4部門を制した▼作品の主旋律は貧富の格差である。だが個人的には、副旋律を奏でていたのは北朝鮮の存在感だ。「38度線以南なら路地裏まで（わかります）」。南北の国境線を持ち出すお雇い運転手の一言に半島分断を実感する▼「敬愛する金正恩同志は悪質で低俗な挑発に対し、怒りを禁じ得なかった」。北朝鮮の看板アナウンサーの口まねをする家政婦に、「親北ギャグの極致」と男性が笑う。あの独特の抑揚は韓国でも笑いのタネとされているらしい▼映画に乗じて韓国社会を酷評したのは北の対外宣伝メディアだ。「（韓国が）貧富の拡大という悪性腫瘍を抱え、腐って病んだ社会であることを気づかせてくれる」と紹介。そのうえで自国を「誰も平等な暮らしを享受」「世界の人々の羨望の対象」とすがすがしいほど賛美する▼映画を見て、「金スプーン」「泥スプーン」という韓国の流行語を思い出した。親の財産で子の人生が決まってしまうという意味だ。格差が絶望的に開くのは韓国に限らない。だからこそ、この作品が言語や国境を超えて高く評価されたのだろう▼とはいえ、そんな理屈など抜きにして楽しめる奔流のような悲喜劇である。キム一家とパク一家の運命が交錯する一瞬一瞬から目が離せない。